

みじうおくし給ひて、御てもわななくげにや、まとのあたりちかくだによらず、無邊世界をい給へるに、關白殿色あをくなりぬ、又入道殿○道長いさせ給ふとて、攝政關白すべきものならば、このやあたれとおほせらるゝに、はじめのおなじやうに、まとのわるばかりいさせ給ひつ、きやうようしもてはやしきこえさせ給へるけうもさめて、ことにがうなりぬ、ちゝおとゝ帥殿に、なにかいる、ないそくとせいさせ給ひてことさめにけり、入道殿やもとして、やがていでさせ給ひぬ、そのをりは左京大夫とぞ申し、ゆみをいみじくいさせ給ひしなり、又いみじくこのませ給ひしなり、けうに見ゆべき事ならねども、人のさまのいひいで給ふことのおもむきより、かたへはおくせられ給ふなめり、

〔政事要略二十九〕木幡寺鐘銘并序

江匡衡作

木幡山者、左青龍、右白虎、前朱雀、後玄武之勝地也、四方似城、百里不絶、元慶太政大臣昭宣公○藤原基經相地之、宜永爲一門埋骨之處、爾來氏族彌廣、子孫繁昌、帝后必出於此門、王侯相將濟々焉、爰皇朝親舅左丞相○道長准曩祖墓域多武峰側、建立妙樂寺、修常行三昧之例、茲山下新建道場、修法花三昧、額曰木幡寺矣、○下略

〔天鏡裏書〕法成寺供養事

治安二年七月十四日壬午、入道前太政大臣○藤原道長建立法成寺金堂、被供養之、仍天皇○後一條臨幸、准御齋會、太政大臣已下被會矣、太皇太后宮○一條后彰子、皇太后宮○三條后妍子、中宮○後一條后威子、以院○敦明親王、同以渡御、以天台座主院源爲講師、今日大赦天下、

〔法成寺金堂供養記〕治安二年七月十四日壬午、○中略左大臣○藤原賴通奉勅語、臨於堂東南檻、召大外記清原真人賴隆、被仰云、可召內記檢非違使者、賴隆稱唯退出、即令參大內記菅原朝臣忠貞、左衛門權佐大江朝臣保資、各承宣旨退出、是依前大相國有被奏、被行非常大赦也、大臣又召賴隆真人被仰云、